

献 辞

2023年3月末をもって、31年間の長きにわたり本学の発展に貢献された人文学部教育学科所属の岡本徹先生がご退職されました。研究・教育の両面から本学の発展に貢献いただきました岡本先生に敬意を表し、『広島修大論集』第64巻1号が刊行されるにあたり、これを『岡本徹教授退職記念号』とすることといたします。

岡本徹先生は、広島大学教育学部小学校教員養成課程をご卒業ののち、同大学大学院教育学研究科博士課程後期単位取得満期退学をされました。その後、広島大学教育学部研究生を経て、昭和57年に同大学教育学部文部教官助手に就任。翌年には、東亜大学講師としてご着任されました。平成5年に、広島修道大学人文学部助教授として着任され、平成8年には教授となり、研究・教育両面より本学発展に寄与いただきました。

主なご担当科目は「教職入門」「教育制度・教育課程論」「教育政策論」「教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」などで、とくに教育行政学の領域では多数のご著書と論文を刊行され、その知見をもって本学の教職教育においても大きな寄与をしていただいたことは言うまでもありません。また、人文学部長として、そしてその後副学長として人文学部ならびに大学全体の運営面では多大なるご貢献をいただきました。なかでも、本学が鈴峯女子短期大学との合併を行い、その一環として人文学部人間関係学科内の教育学専攻を、同学部内の教育学科として設置するなかでは、異なる設置学校であった大学・短期大学との非常に難しい統合を教育学専攻の側で粘り強く陣頭指揮を取られました。

今から10年前の2013年、人文学部が創設40周年を迎えたときに学部長をされていたのは岡本先生でした。私個人は当時社会学専攻の代表であり、周年行事の実行委員会のメンバーとして参画しておりました。その際に若い世代の教員の意見を真摯に受け取っていただき、その実現を後押ししていただいたことはとても印象的でした。周年行事のあとは、慰労会を開いていただきまして、当時はまだ若手であった私たち実行委員の面々をねぎらっていただいたことはよく覚えています。

そうした岡本先生のお人柄は、学生はもとよりゼミ生に対する接し方にもつながっているものと感じています。学内では、ゼミの卒業生、それもお子さん連れの卒業生たちと歩きながら談笑しているのをよく見かけました。ゼミの卒業生たちとの長い付き合いも、岡本先生の教育やその後の卒業生たちとの、ある意味で家族的な雰囲気による関係作りによるものと思います。

いつだったのでしょうか、岡本先生からは、ピアノを趣味で演奏されるとお聞きしたことがありました。そのときに、すごく嬉しそうな表情をされていたので、音楽が好きでかつて自

分でも楽器を演奏していた私には、先生がピアノ演奏を心の底から楽しんでおられることがよくわかりました。ただ、残念なことに先生のピアノ演奏を拝聴する機会にはめぐまれませんでした。岡本先生はご退職後もまだまだ精力的にご研究を続けられると思いますが、これからはピアノ演奏も楽しまれ、ほんとうに自由な実り多い時間を過ごされることを、私にとってはうらやましくもありますが、期待しております。

最後になりましたが岡本先生の本学および人文学部へのご貢献に深く感謝申し上げますとともに、益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

人文学部長

河 口 和 也